

前に見ゆる *hvaṃnā* なる語に近い王名を見出さねばならぬ。*hvaṃnā* は *hvaṃnā-hvaṃnā* の形と見ることが出来る。唐書及び西域記に據ると、唐代に於る于闐の俗名は *Huan-na* (喚那) であつた、此の *Huan-na* は兩文書に見ゆる *hvaṃnā* なる語と同一であり、従がつて此等の文書は或る于闐王の支配した間の日附けに係るものなることは明白である、而して此のことは *rrundā* の次の語なる *Viśavāhan* なる語を考察すれば、事實として證據立てられることである。もし *hvaṃnā rrundā* を「于闐王の」と解くことが正しければ、誰しも次の語を王の名と見るであらう。而して喚那なる于闐の國名は、たゞ唐書及び玄奘によりてのみ知らるゝものであることを記憶するならば、こゝに自づから唐代の于闐の王に就いて考察して見なければならぬ。

唐書に據れば于闐の王家は *Wei-chih* (尉遲) 姓であつた。而してこの尉遲はチベット文學中に存する或る表の中に見ゆる于闐王の名の初めの部分なる *viśaya* なる語を表はしたものでなければならぬことは、永く認められたことである。此の表は *Rockhill* 氏によつて發表せられたが、*Thomas* 氏及び *Sarat Chandra Das* 氏もまた各々それを増補して發表した、さてその中には文書に見ゆる *viśavāhan* に相當する名として、*Sarat Chandra Das* 氏が *Vijayavahana* と稱し、*Thomas* 氏が *Vijayabahan chen-po* 即ち大王と稱する王のあることを認める、トルキスタンのイラン語では、*š* なる文字は印度から借りた語に於て *j* の代りに時々用いられてある、また *sa* 下の弧線は音の短縮を表はしたものと見てよいから、*viśa* は梵語の *viśaya* を寫したものである。次に *vāhan* は梵語の *vahana* の普通の寫し方である。故に *viśavāhan* は梵語の *Vijayavāhana* に最も近いものである、こゝに於てか此の西藏の表なるものは疑もなく事實の上に基礎を有して居るといふ確證を得た次第であり、一方には此の兩文書